



魅力だより



No. 1

R7. 5月

高校教育課学校教育生徒指導班

新年度を迎え、2ヶ月が過ぎました。先生方も子供たちも大型連休が終わり本格的に学校生活に向き合っていることと思います。

県教委が推進している「魅力ある学校づくり」も年々、多くの学校で取組が広がっているところです。年度初めにあって、改めて生徒指導の意義や、「魅力ある学校づくり」の理念や手法について、確認していただけるとありがたいです。

1 生徒指導の定義

<定義> 児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達をする過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や支援を行う。

- ① 児童生徒が自らを個性的存在として認め、自己に内在するよさや可能性に自ら気づき、引き出し、伸ばす。
- ② 社会生活で必要となる社会的資質・能力を身に付けることを支える。

学校の教育目標を達成する上で、重要な機能を果たし、学習指導と並んで重要な意義を持つ。

2 生徒指導の目的

<目的> 児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えること。

児童生徒一人一人が「自己指導能力」を身に付けることが重要。

児童生徒が、深い自己理解に基づき、主体的に問題・課題を発見し、目標を選択・設定し、他者を尊重しながら、自発的・自立的に行動・実行する力の獲得を目指す。

3 生徒指導実践上の4つの視点

- 自己存在感の感受への配慮
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全・安心な風土の醸成

毎日の授業の中で4つの視点を踏まえた取組を行うことが最も重要

これからは、学習指導と生徒指導の一体化を!!

授業の中での生徒指導

二つの側面

授業を成立させるための生徒指導

授業に内在化した生徒指導

自己存在感の感受への配慮

共感的な人間関係の育成

自己決定の場の提供

安全・安心な風土の醸成

学習指導の中で、**自己指導能力の育成**を図る

授業に内在化する生徒指導

4 「魅力ある学校づくり」の理念と手法

子供と教師にとって「魅力ある学校」にするために、子供の声を聴く「意識調査」を指標として、教育活動の改善、見直しを行う。

※ 「全ての児童生徒が対象」、「全ての教職員で行う」、「全ての教育活動で行う」

①子供たちの1年後のゴールイメージ、その成長を支えるための具体策を話し合う。

<ゴールイメージの例>

- 自分のよさや可能性を活かしていきいきと活動する。
- 全員が、毎日満足して下校する。
- 互いの意見を尊重しながら、自治的な活動ができる。
- 主体的に協働的な学びを進めることができる。
- 一人一人が成長を実感し自信を持って卒業を迎える。

<成長を支えるための具体策の例(教師が取り組む)>

- 全員1日1回は、意識して認めたり誉めたりする。
- 成長を実感できるようなキャリアパスポートにする。
- 委員会活動や係活動の企画・運営を委ねてみる。
- 授業、行事などで「ふりかえり」を習慣化し、肯定的なコメントを書いてフィードバックする。
- 日々の授業で、学び合いの場を必ず設定する。

②「意識調査」により子供の声を聴く

【意識調査】

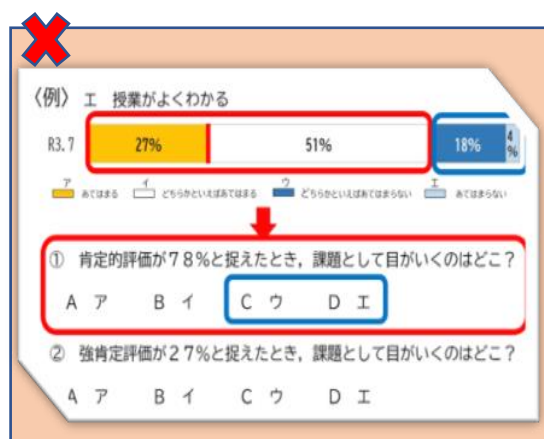
現在の学校生活について、あなたはどのように感じていますか。当てはまるものを右の1から4の中から選び、その番号に○を付けてください。

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
ア 学校が楽しい	1	2	3	4
イ みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	1	2	3	4
エ 授業がよくわかる	1	2	3	4

必要最小限の調査で負担軽減も図りながら意味のある取組をねらう！

- ・学習と人間関係に絞った質問
- ・4件法
- ・無記名式
- ・学年単位で集計

※「1.当てはまる」に焦点化する！



意識調査結果の分析→「見積もり値」とのズレに着目

数値目標を使ったCHECK・ACT/PLAN

目標値は「希望値」ではなく「見積もり値」に

パターンA

✖ ① 目標値 (= 希望値) を立てる ➡ ② 達成するための取組を考える

パターンB

○ ① 改善を図るための具体的な取組方法を考える ➡ ② 目標値 (見積もり値) が決まる

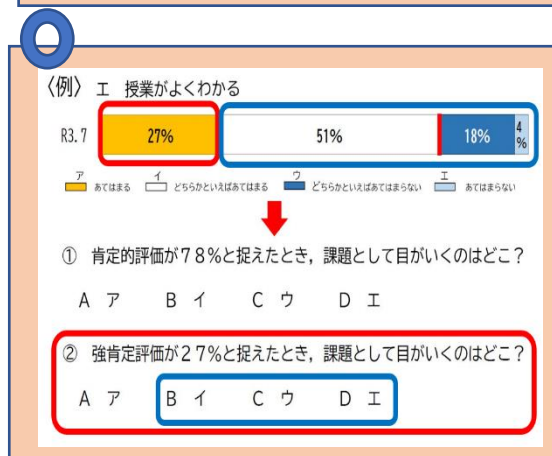
教師の見積もり値とズレがあったな。こう改善すればこれくらいになるだろう。

<実践 (DO) 後のCHECK・ACT/PLAN>

パターンA…目標値 (希望値) の修正へ

パターンB…取組方法の改善へ

目標値 (見積もり値) とのズレを埋める「手立て」を考える



③「意識調査」を基に具体策を話し合う。

先生方による話し合いでの共通理解 (例)

- 対象は、全ての子供
- 個別指導・個別支援の話にならないようにする。
- 経験値の有無は関係なし。
- どの立場の意見も尊重する。
- 一人一人の考えを受け入れ、認める。
- ダメ出し、否定はなし。
- 大きな負担があるものは採用しない。
- みんなが納得する。

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくると思います。ちょっとしたことでも、どうぞお気軽にお尋ねください。(市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。)

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班 (田中・福元)

TEL 099-286-5532

Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp